

市民コンサート

ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団 2019 日本ツアー ゆとろぎ公演

チェロ/ガスタフ・リヴァニウス

ピアノ/オリヴァー・トレンドウル

ヴァイオリン/ダニエル・ゲーデ

Hugo Wolf Trio Wien



客演 ヴィオラ奏者 山寺明子

日時：10月27日(日)

午後7時開演 (開場午後6時30分)
終演予定午後9時

会場：羽村市生涯学習センター ゆとろぎ大ホール

入場無料
(全指定席)

■ゆとろぎ・特別プログラム■

ブラームス ピアノ三重奏曲 第2番 ハ長調 op.87

ブルッフ ピアノ三重奏曲 8つの小品 op.83 より No.2, No.6, No.7 (特別出演 ヴィオラ 山寺明子)

ヘンデル=ハルヴォルセン パッサカリア

日本の歌メドレー (編曲：高橋幸代)

タンゴ・メドレー (編曲：エーリッヒ・シャゲレル、ウィーン・フィル)

シュトラウス2世 美しく青きドナウに

*演奏者の希望により曲目を変更する場合がございます。

入場整理券配布開始日

9月1日(日)

(ゆとろぎチケット窓口)

9:00~20:00

※お一人4枚まで、
未就学児不可

主催/公益財団法人 青梅佐藤財団 共催/羽村市教育委員会・NPO法人 多摩の青少年を育てる会

協力/ゆとろぎ協働事業運営市民の会

お問合せ/ゆとろぎ 電話：042-570-0707・公益財団法人 青梅佐藤財団 電話：090-5195-3030

ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団は2007年1月にウィーン・フィルの前コンサートマスター、ダニエル・ゲーデにより結成されたピアノ三重奏団で、すでにソリストとして欧米を中心に目覚ましい活躍を続けていたピアニスト、マリノ・フォルメンティ、ウィーン・フィルでチェロの貴公子と呼ばれ、その美音を誇るチェロ奏者ラファエル・フリーダーを配した3名が紡ぎだす名曲の数々は、わが国の音楽愛好家に熱心な多くのファンを獲得し、2008年以来3回行われた日本ツアーは極めて成功裏に終始した。2012年にはチェロ奏者として巨匠グスタフ・リヴィニウス（1990年チャイコフスキー国際コンクール優勝者）が参加し、圧倒的な名演を繰り広げた。そして2016年の日本ツアーではピアニストに名手オリヴァー・トレンドウルを迎え、その巨匠性に満ちたピアノリズムと稠密なアンサンブルは日本の聴衆に鮮烈な感動を与えることとなり、再来日が待たれていた。また招聘期間の半ばにはウィーン・フィルの名ヴァイオリニストであり、クライスラーやモンテあるいはジブシー音楽、ジャズ等も得意とするエーリッヒ・シャゲレルの参加も予定されている。クラシック音楽の世界にとどまることのないシャゲレルの超絶技巧も日本の聴衆を虜にするであろう。

■メンバー紹介■

オリヴァー・トレンドウル (Oliver Triendl)

ピアノ

1970年に南ドイツのマーラーズドルフで生まれる。ゲアハルト・オッピッツやオレグ・マイセンベルク等の薫陶を受け、幼少時より国内外で多くのコンクールで多くの受賞歴を数える。トレンドウルはソリストとして古典及びロマン派から現代曲まで網羅した幅広いレパートリーを持ち、欧米を中心に数多くのリサイタルを行うと同時に、ミュンヘン交響楽団、バンベルク交響楽団、北ドイツ放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ザールブリュッケン放送交響楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ローザンヌ室内管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、ポーランド室内管弦楽団、チェコ国立管弦楽団、上海交響楽団などの著名オーケストラと共演し成功をおさめ、その足跡はさらに南北アメリカ、南アフリカ、ロシア、中国、日本等にまで及んでいる。また室内楽の演奏家としても高名でありダニエル・ゲーデ、ロリン・マゼール、ライナー・クスマウル、シャロン・カム、フランソワ・ラリュエ、ダヴィド・ゲリンガス、サビネ・マイヤー、ウルフガング・マイヤー、マリー・ルイーゼ・ニューネッカー、グスタフ・リヴィニウス、ベンジャミン・シュミット等の名手と共演している。トレンドウルは録音にも意欲的ですので50枚以上のCDをリリースしている。

ダニエル・ゲーデ (Prof. Daniel Gaede)

前ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター

ベルリン・バロック・ソリスト音楽監督

1966年にドイツ、ハンブルクに生まれる。6才よりヴァイオリンを始め83年ドイツ国内コンクール1等賞及びロンドンにおけるカール・フレック国際コンクール優勝。1986年にはクラウディオ・アバドの主宰するEUユースオーケストラ、コンサートマスターに就任し、世界的な演奏活動を展開し1992年にはカーネギーホールにデビューした。ソリストとしてロイヤル・アルバート・ホール、バービカン・ホール、ウィーン楽友会館ホールで演奏、ウィーン・フィルやフィルハーモニア管弦楽団を初めとする著名オーケストラと共演する。室内楽奏者としてはゲーデ家の3兄弟でゲーデ・トリオを結成し、現代音楽を含んだ多彩な演奏活動を展開し、欧米及び日本で多くのTV・ラジオに出演する。ドイツ・グラムフォン、ラルゴ等のレーベルより多数のCDをリリースする。1991年より94年までベルリン芸術大学で教鞭をとり2000年以降はニュルンベルク音楽大学ヴァイオリン科主任教授の重責を担っている。1994年から2000年までウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団でコンサートマスターを務めた。2013年から3年間読売交響楽団コンサートマスターの要職に在り、またベルリン・フィルの首席奏者で構成されたベルリン・バロック・ソリストの音楽監督を務めた。欧米やアジア諸国で演奏会出演も数多く、毎年、霧島国際音楽祭、軽井沢音楽祭等に招かれ、ソリストや室内楽奏者として多彩なコンサート活動の傍ら積極的に後進の指導にあたっている。また2011年秋より東日本大震災被災地応援ツアーを開始し、東北の被災地を毎年訪問して既に90回以上のボランティア演奏会を行っている。

グスタフ・リヴィニウス (Prof. Gustav Rivinius)

チェロ

1990年チャイコフスキー国際コンクール優勝者

チャイコフスキー国際コンクール・チェロ部門審査員

グスタフ・リヴィニウスは1990年にモスクワで開催されたチャイコフスキー国際コンクールのチェロ部門の優勝者で、同時に解釈賞も受賞した。そして現在に至るまでドイツ唯一のチャイコフスキー国際コンクール優勝者であり、すでにチェロ独奏者としての地位を世界的に確立し、バイエルン放送交響楽団、ライプツヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団等の著名オーケストラや、ロリン・マゼール、ヴァレリー・ゲルギエフ、クリストフ・エッシェンバッハ、ヴァツラフ・ノイマン、ホルスト・シュタイン等の数々の巨匠たち及び有名な音楽家たちとの共演を続けている。リヴィニウス家は音楽一家としても有名で、兄弟でリヴィニウス・ピアノ四重奏団を結成し長年にわたり演奏活動をしている。またダ・サロ・トリオ（弦楽トリオ）、バルトルディ弦楽四重奏団に所属し、室内楽奏者としても活発に活躍している。グスタフ・リヴィニウスはHFMザールブリュッケン音楽大学教授であり同時にSchleswig-Holstein音楽祭のマスタークラスを受け持っている。これまでに多くの国際コンクールの審査員を務めてきたが、2011年よりチャイコフスキー国際コンクールの審査員に選出された。日本には2012年及び2015年にウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団と共に来日し、その圧倒的な超絶技巧に寄り聴衆の絶賛を浴びた。また2015年2月には東日本大震災被災地応援ツアーのためマクシミリアン・フリーダーと東北の被災地をボランティアとして訪問し12回のコンサートで演奏した。

■客演■

山寺明子

ヴィオラ

玉川大学芸術学部音楽専攻卒業、同校芸術専攻科修了

ヴィオラを大野順二、岡田伸夫、プラム・ブルース、エドワルド・クドラックの各氏に師事。1999年以来ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団、ウィーン・アルカディアピアノ四重奏団の日本各地における公演に連続して客演し、2006年ピアニストのマリノ・フォルメンティ氏、ヴァイオリニストのエーリッヒ・シャゲレル氏と共演。2007年、ウィーンフィルのギュンター・ザイフェルト氏の勧めでプラムスクアルテットを結成。現在、室内楽・オーケストラを中心に活躍している。